医療・介護 最前線リポート

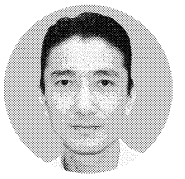
心臓画像クリニック飯田橋（東京都新宿区）

心疾患診断、当日に結果

心臓画像クリニック飯田橋（ＣＶＩＣ、東京・新宿）は心臓の画像診断に特化した国内初のクリニック。医療機関から依頼を受けて診断するほか、検査項目を心臓と脳に絞った心臓ドックと脳ドックも実施している。心疾患はがんに次いで多い日本人の死因だが、動きが激しい心臓の画像診断は難しい。ＣＶＩＣは日本の心疾患医療の変革を目指している。

診察室の液晶モニター上にコンピューターグラフィックス（ＣＧ）で細かく描かれた心臓の画像が浮かぶ。クリックすれば血管を自由に拡大して異常がないか見られる。寺島正浩院長は「心疾患に無自覚だった人も画像を目の当たりにして真剣に説明を聞いてくれる」と話す。

心臓は常に拍動しているため、ほかの臓器に比べてコンピューター断層撮影装置（ＣＴ）や磁気共鳴画像撮影装置（ＭＲＩ）での撮影が難しく、撮影した画像の再構成にも時間がかかる。

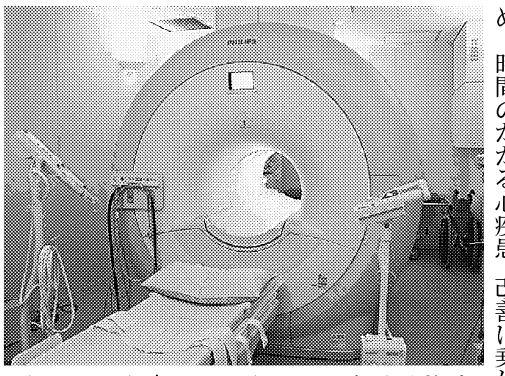


寺島正浩院長

ＣＶＩＣは撮影した画像を都内のデータセンターに送り、数十分で再構成。経験豊富な専門医もそろえ、来院したその日に患者が結果を聞ける仕組みを整える。

連携する延べ２５０の病院や開業医から依頼を受け、１カ月に３５０～４００人の心臓画像診断を実施する。１年間に国内で実施されるＭＲＩを使った心臓画像診断件数のうち「１割強をＣＶＩＣが受け持っている計算になる」（寺島院長）という。

２００９年の開院以来、クリニックへの依頼は増え続けている。背景にあるのは「総合病院は多くの患者が来院するため、時間のかかる心疾患患者の画像診断に医師も十分な時間を割くのが難しい」（寺島院長）という現状だ。検査を受けるまでに１～２カ月かかることも珍しくないという。



クリニック内にＣＴとＭＲＩをそろえる

心疾患は日本人の死因の２位を占めるため厚生労働省もこうした事態の改善に乗り出している。08年度の診療報酬改定で心臓の画像診断に加算を認定。撮影後、翌診療日までに患者に結果を伝えた場合に加算し、心臓画像診断にかかる時間の短縮を促す。

ただ難易度の高い心臓を効率良く画像診断する体制を築くのは難しい。寺島院長は米国留学時に特定の臓器に絞った画像診断施設が普及しているのを目の当たりにし、「日本にも心臓に特化した施設が必要」と開院を決意した。

現在は総合病院で診察を受け、精密検査が必要とされた患者の来院が６割を占めるが、今後は診療所からの紹介を増やしたいという。ＣＶＩＣで画像診断することで「総合病院は検査負担を軽減でき、治療に専念する環境が整う」（寺島院長）からだ。

取り組みは広がりを見せつつある。東京医科歯科大学に勤める手塚大介医師は週１日、ＣＶＩＣで検査を受け持つ。ＣＶＩＣの心臓画像診断の技術を学び、重要性を実感。「勤務先の大学病院に訴え、ＭＲＩを使った心臓画像診断ノウハウを導入した」という。

ＣＶＩＣには栃木県や静岡県などからも患者が訪れる。寺島院長は「いずれは全国の大都市５カ所ほどで同様の診断施設を開き、利便性を高めたい」と話す。

高価な画像診断装置を病院側に購入してもらい、ＣＶＩＣの医師や技師を派遣して各病院の心臓画像診断を支援する「サテライトセンター」構想も温めている。

（上月直之）

《ＣＶＩＣの概要》

▽所在地　東京都新宿区新小川町１の14

▽電　話　03・5206・5956

▽開　設　2009年11月

▽従業員　８人

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。